

糖尿病透析患者に対する GLP-1 受容体作動薬
リラグルチドの使用経験
- 皮下連続式グルコース測定 (CGM) による評価 -

長崎腎病院

○江藤りか 宮崎健一 李嘉明 橋口純一郎 小嶺真耶 中島ゆかり 矢野未来
本多佐代子 原田孝司 船越哲

【目的】

糖尿病透析患者におけるリラグルチドへの適応を検討する。

【対象および方法】

当院外来の糖尿病透析患者のうち、血糖コントロール不良 (HbA1c>7.0%) で、空腹時 CPR>5.0 μ U/mL の 4 例に対して、本人のみならず家族 (キーパーソン) も同意の上、入院管理にてリラグルチドを開始し、その前後に CGM にて血糖変動を測定した。

【結果】

インスリンからリラグルチドに切り替え後、HbA1c は $8.4 \pm 3.1\%$ から $6.4 \pm 2.0\%$ 、血糖変動スコア (Mean Amplitude Glucose Excursions) も 128 ± 41.0 から 60.3 ± 32.3 と、それぞれ有意に低下し、低血糖はみられなかった。

【考察】

糖尿病透析患者において、比較的少量のインスリンからリラグルチド単剤への切り替えが安全に可能で、血糖変動の安定化も得られ、有効性が期待される。

HbA1c : NGSP 値